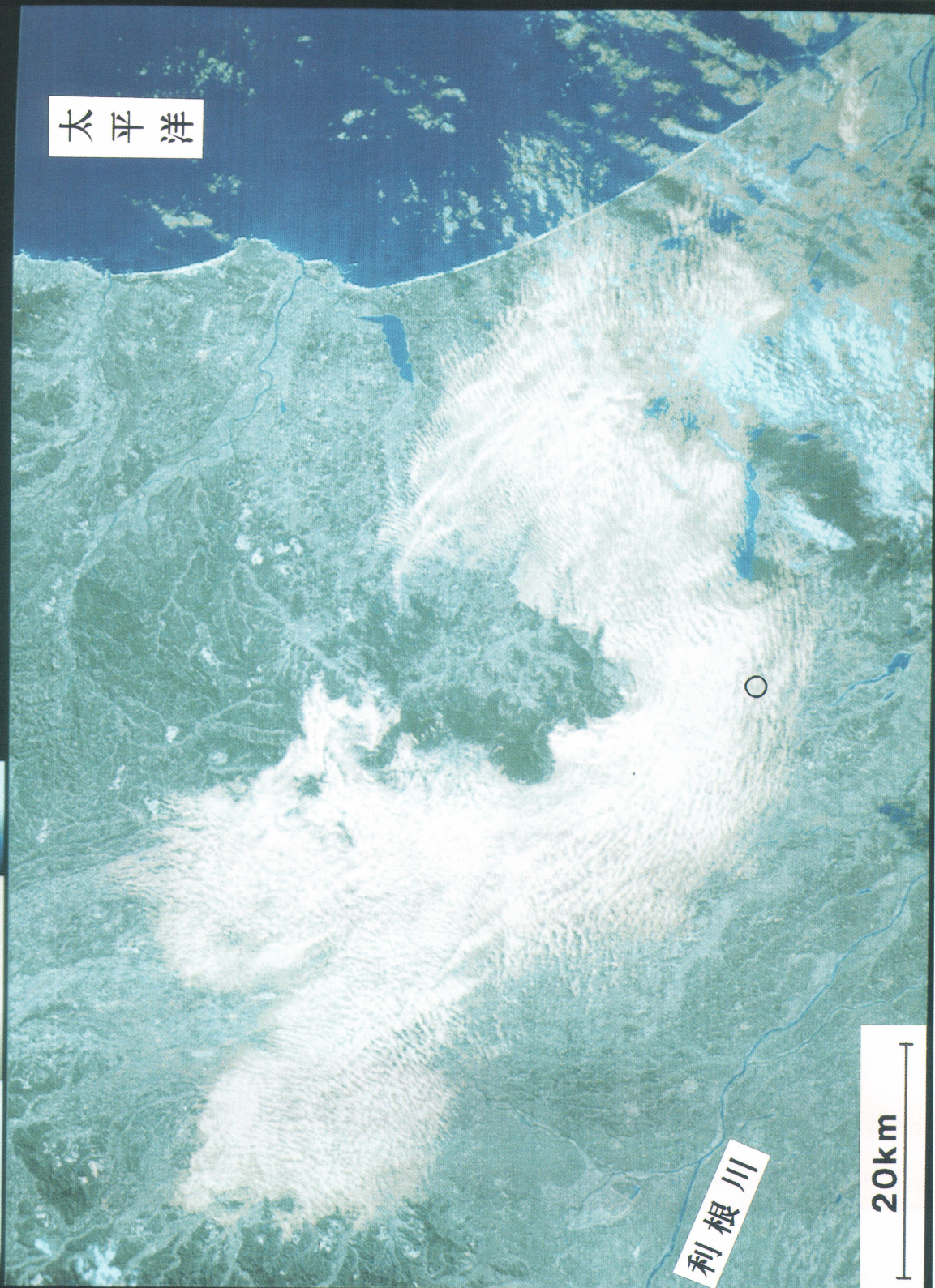


09DEC85 0107-035 T 3 SUN EL25 A152 NASDALANDSAT E-5

太平洋

利根川

20km



ランドサットから見た消散期の霧の構造*

栗 田 進**

霧の構造といっても多くの人にはピンとこないかもしれませんが、でもこの写真を見れば一目瞭然でしょう。これは1985年12月9日9時43分のランドサット画像をデータ処理で分類しカラー写真化したもので、ランドサットの分解能は30mと非常に小さいのでGMSやノアでは分からない構造を捉えることができます。(この写真は縦横共3分の1に間引いて表示している。)

筑波山の周囲に消散期の霧が東西 80 km、南北 60 km にわたり広がっていて、そこには様々なタイプの構造が見えます。これ位分解能が良いと写真を見るだけで様々な想像が巡ります。皆さんにはどれだけの構造が見えて、その成因が思い付くのでしょうか？あるいは課題となる現象があるのでしょうか？何かおもしろい考えや御意見がありましたら是非筆者に教えてください。先入観が無い方

が良いと思うので気象データは示しませんが、知りたい方は Kurita *et al.* (1990 ; Atmos. Environ., 24A, p1473~1486), あるいは平成2年度気象研究所研究発表会誌 (p60~71) により詳しい写真と共に示してあるのを参考にして下さい。ただしこれはあくまでも霧が消えていく過程での構造であり、成熟期に関しては未だ分かっていません。(ランドサットのデータは宇宙開発事業団で受信処理されたものを使用した。)

写真説明

クリーム色は霧、薄い青は雲、青は海、湖や川。その他は緑っぽく色付けした。霧上の雲影に注意、中央が筑波山、その回りを霧が取り囲む様に大きく曲がっている。丸印は気象研。約 350 度方向が北。

* Structure of fog in the dissipation stage observed by Landsat.

** Susumu Kurita, 気象研究所応用気象研究部。